

45. 膠原病患者のリンパ球サブセット two-colour 解析による検討

前田敏郎, 吉田象二, 高橋英則
(旭中央)

SLE では正常人と比べて, 活性化T細胞の上昇を認め, NK, suppressor, inducer 細胞の低下を認めた。さらに heu 7, heu2a, double positive の部分の有意な上昇を認め, 臨床経過 (C₃, C₄, CH50) と負の相関を示した。この double positive な部分は, heu 1 positive, heu 11 negative であった。

47. 脳幹梗塞と著明な蛋白細胞解離を認めた SLE の 1 例

野崎 修, 齊藤康栄, 佐藤重明
(鹿島労災)
鈴木義史, 杉山隆夫 (千大)

症例は34歳女性。主訴は四肢の脱力。現症歴: 昭和54年より SLE の診断で, ステロイド治療を受けていたが, 昭和62年, 発熱, 四肢の脱力出現, 入院となった。入院時四肢の筋力低下が認められた。入院後しだいに脱力は改善してきたが, 突然左片麻痺出現 CT で右脳幹梗塞が認められ, 髄液では蛋白細胞解離, IgG の上昇がみられた。ステロイド療法を開始し, 検査所見の改善, 臨床症状の改善がみられた。

49. 当院における PTCA の成績

富塚卓也, 矢崎規子, 隈井俊彦
山中 理, 石橋 巖, 下浦敬長
角田興一
(千葉県救急医療センター)

PTCA 施行例27例の成績につき報告した。対象疾患は OMI 21例, AMI 2 例, AP 4 例であり, 25例で拡張に成功。3か月後に再検した7例中, 1例で完全閉塞, 4例で99%狭窄を認めた。合併症としては Dissection 2, 冠スパスム1, 動脈瘤形成1であった。

50. 急性心筋梗塞後心室中隔穿孔例の血行動態と手術適応決定時期についての検討

藤原敏正, 山下道隆
(松戸市立)
加賀谷明彦, 村山 紘
(同・循環器科)
渡辺 寛 (同・心血管外科)

当院にて9例の AMI 後 VSR 例を経験し, 手術成功

率は43%であった。右心不全は本症の 予後に関わり, RAP/LAP をとり評価した。IABP 挿入下にて, この比が1以上では, 手術適応を考慮すべきと結論した。

51. ホルター心電図による血液透析例の不整脈

内田宏子, 広瀬麟也
(東京船員保険)

ホルター心電図で血液透析例の不整脈を調べ, 赤池情報量規準を用い解析を行った。上室性及び心室性外収縮の合計が100/日以上出現した頻発群は非頻発群に比して年齢が有意に高く, 透析日では非透析日に比し期外収縮数が有意に多かった。上室性期外収縮は透析中に, 心室期外収縮は透析後2—5時間で有意に頻発し, 両者の出現機序に差があると推測した。

52. 人間ドックにおける心エコー法の意義

林 良明, 菊野 薫, 黒崎 隆
永井 順 (沼津市立)

人間ドックに心エコー法 (東芝 SSH-40A 型) を導入しその有用性につき検討した。対象者 227 名 (男188, 女39), 年齢31~77歳。結果: 1. 従来のドック形式で見つかりにくい亜性僧帽弁狭窄症, 僧帽弁輪石灰化, 拡張型スポーツ心を診断しえた。2. Ecg のみによる左室肥大診断は不確実で, Sensitivity 45%, specificity 94%, accuracy 83%であり, 本来形態学的診断すべき LVH には, 心エコー法が不可欠と思われた。3. 心エコー法による心機能分析で LVH の33%に拡張能低下を認めた。

53. 抗脂血剤投与により冠動脈狭窄の改善をみとめた家族性高コレステロール血症の 1 例について

小林 淳二, 佐々木憲裕, 金井英夫
明星志貴夫 (川鉄千葉)
下浦 敬長
(千葉県救急医療センター)

血清脂質低下剤 (プロブコール) 投与による血清総コレステロールの著明な低下に伴いアキレス腱肥厚の改善と共に冠動脈硬化症の退縮をみとめた家族性高コレステロール血症 (type IIb) について報告した。

54. HDL のコレステロール値と HDL の性状について

佐々木憲裕, 小林淳二, 金井英夫
明星志貴夫 (川鉄千葉)

血中 HDL のコレステロール値は単に HDL 粒子数